
福岡市次期基本計画(マスタープラン)策定に向けた 民間意見の取りまとめプロジェクト

提言

2023.11.9

生活の質の向上と都市の成長の好循環は、
新たなフェーズへ。



 **Fukuoka D.C.**

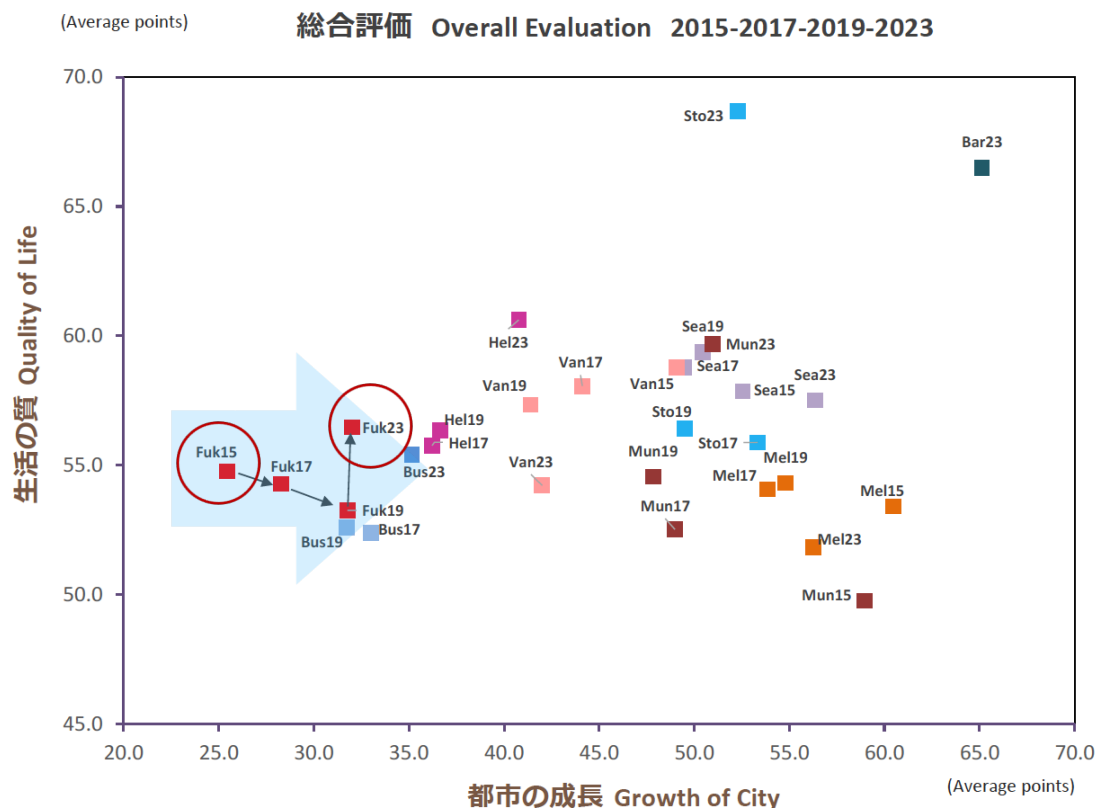
福岡地域戦略推進協議会

目次

1. これまでの10年の福岡	・・・2
2. これからの10年の福岡	・・・5
3. 提言	・・・10
• 「都市経営の基本戦略」のアップデート	
• 目指す姿	
• 施策の方向性	
- 提言の経緯（民間意見取りまとめプロジェクト概要）	・・・18

1.これまでの10年の福岡

- ◆ 10年前の福岡市は、「第3極」都市ベンチマークと比較して「生活の質」は国際的にも遜色なし。経済分野、成長を加速させることが課題だった。
- ◆ 都市間競争の時代、「都市の成長」を実現できなければ「生活の質」も今後維持できない＝持続可能でないことから、これまで「都市の成長」に注力。



「第3極」の都市

- ・福岡と類似性を有している、首都・経済首都でなくメガ・シティでもない9つの国際都市 (シアトル、バンクーバー、メルボルン、ミュンヘン、バルセロナ、ストックホルム、ヘルシンキ、釜山、福岡)

「生活の質」指標

- ・人口構成 (平均年齢、高齢化率)
- ・生活コスト (外食価格や家賃水準) NYCとの比較
- ・犯罪の少なさ (人口当たり殺人件数)
- ・医療環境 (人口千人当たり医療従事者数)
- ・災害頻度の少なさ (地震、洪水、台風発生頻度)
- ・自然の豊かさ (中心部の緑地比率)
- ・都市のコンパクトさ (人口密度) etc.

「都市の成長」指標

- ・観光資源の充実度 (世界遺産、ランドマーク)
- ・1人当たり世帯年間平均可処分所得
- ・レストラン件数 (海外サイトにおける情報掲載件数)
- ・人材の豊かさ (労働力人口の割合)
- ・Fortune Global 500企業本社数
- ・海外人材の割合
- ・直行便就航都市数
- ・国際会議開催件数 etc.

1.これまでの10年の福岡

- ◆ 「都市の成長」としては、スタートアップ推進や天神ビッグバン等の施策により、今後の成長の“基盤”ができつつある。
- ◆ 「生活の質」に関しても高齢化への対応、医療福祉、交通など様々な施策が講じられている。
- ◆ 「都市の成長」の果実（税収増）を「生活の質」の向上（子育て支援への投資等）につなげている。

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
都市の成長	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ都市宣言 スタートアップカフェ開設 Fukuoka Growth Next開館 スタートアップの「グローバル拠点都市」に選定 国際金融機能誘致「TEAM FUKUOKA」設立 福岡発スタートアップ上場 国家戦略特区 指定 実証実験フルサポート事業 開始 天神ビッグバン始動 博多コネクティッド始動 天神ビジネスセンタービル竣工 博多イーストテラス竣工 ザ・リッツ・カールトン福岡 開業 世界水泳 G20福岡 財務大臣・中央銀行総裁会議 博多港のクルーズ船寄港数4年連続日本一 「福岡市屋台基本条例」制定 											
	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市立こども病院移転 人生100年時代「福岡100」開始 福岡100リニューアル 新青果市場 開館 福岡市総合体育館 開館 福岡市科学館 開館 福岡市美術館リニューアル Fukuoka Art Next 水上公園リニューアルオープン 「一人一花運動」開始 油山牧場・市民の森リニューアルオープン 福岡高速環状線 開通 福岡高速アイランドシティ線開通 地下鉄七隈線 延伸開業 BRT（バス高速輸送システム）導入 福岡空港民営化 											
生活の質												

(参考) 第2次FDC地域戦略の実現にも好循環は不可欠

◆ 多様な人材活躍には「生活の質」の担保が必要である

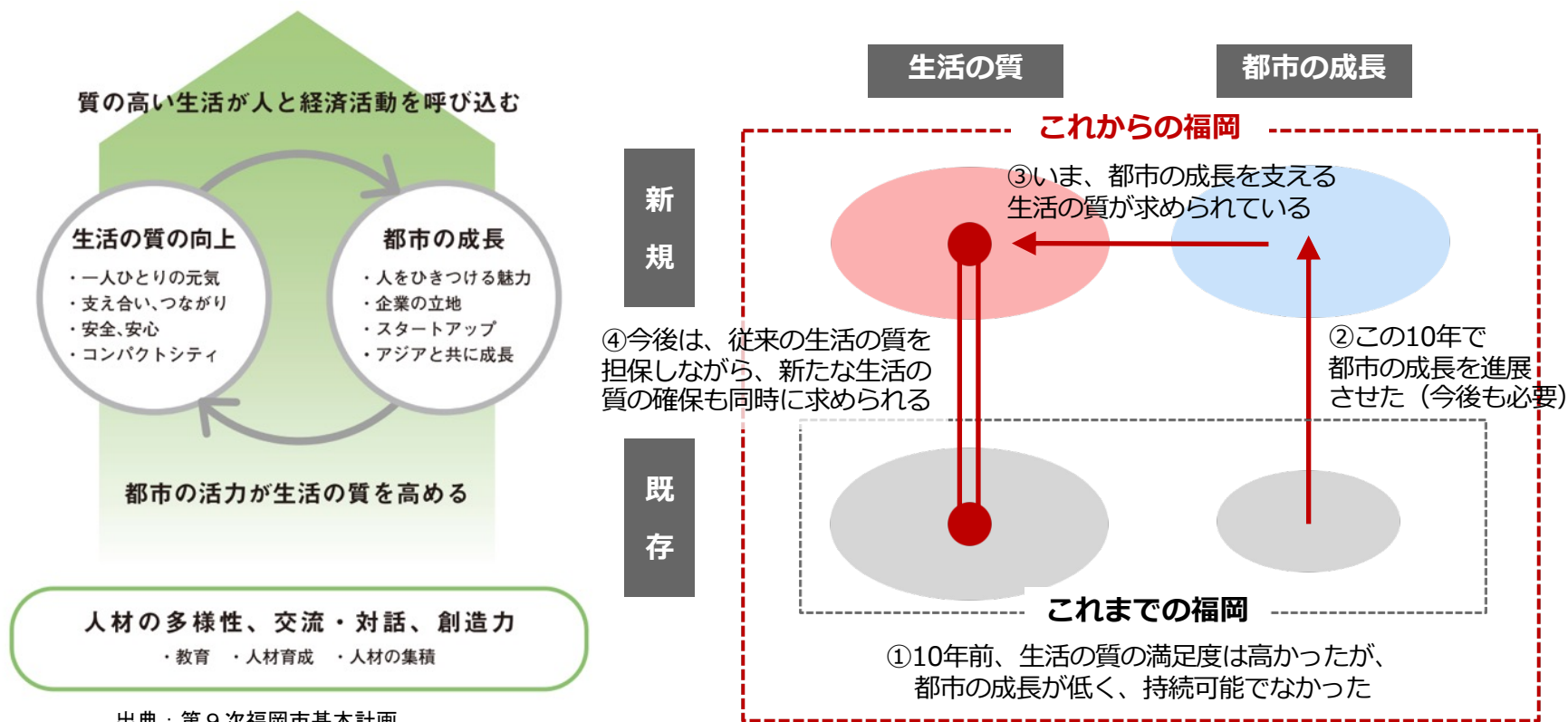
- ✓ FDCでは、コロナ禍の2020年に2030年をターゲットとした地域戦略を改定し、都市の成長と生活の質の好循環を確固たるものにするため、「域外への挑戦を生み続ける」「多様な人材が活躍する場を作る」「革新的・創造的な活動を支援する」を戦略として掲げている。
- ✓ 女性、シニア、外国人など多様な人材活躍のためにも、生活の質の担保が必要。

第2次FDC地域戦略 (2020-2030)



2. これからの10年の福岡

- ◆ これまでの10年で福岡は「都市の成長」「生活の質」とともに大きく進展させたが、一方で、今後10年を見据えたとき、従来と同様のアプローチで「都市の成長」「生活の質」をただ維持するのではなく、変化しなければならない。



2. これからの10年の福岡

◆ 視点1) 福岡は新たなフェーズに移らなければならない

- ✓ 福岡は、古代からアジアの交流拠点都市としての歴史を重ねてきており、特にこの10年はMICE/観光都市として交流を成長につなげてきた。
- ✓ 今後、天神ビッグバン・博多コネクティッドを通じた都心の高付加価値化の推進により、グローバル人材・高度人材の獲得が求められる。従来いなかった層が加わり、交流が多様化する。
- ✓ 「従来の福岡の良さ」と「グローバル人材・高度人材の獲得」の“共存・融合”が必要となる、新たなまちづくりのフェーズに福岡は入っていく。



課題分野	課題と対応案
国際競争力のある制度の構築 日本の税率の高さや行政手続きの難 素化、英語対応の問題等を解消する必要 がある。	1. 税制 →R3年度税制改正(法人税、所得税、相続税) 2. 行政サービスの英語対応や手続き簡素化 →金融庁対応 3. 在留資格の緩和 →金融庁と法務省で協議中 4. ワンストップ支援体制の構築 →福岡市「FGNV」に「Global Finance Centre」開設 →金融庁「拠点開設サポートオフィス」開設
快適なビジネス環境の提供 高付加価値なオフィス環境の確保、 通信インフラ環境の強化、福岡空港国際 線の充実、優秀な留学生等の就職先の確 保等が必要である。	5. 付加価値が高いオフィス環境の確保 →天神ビッグバン、博多コネクティッドによる最先端オフィスの開発 →街区単位での通信・ICTインフラの充実 6. 英語対応専門の士業の確保 →弁護士、会計士、監査法人などの誘致 7. 資産運用業やFinTechを支える地元の高度人材の創出 →産学官の連携による新たな企業や産業の創出、人材の定着 8. 福岡空港の国際路線の機能強化
快適な生活環境の提供 外国人住居の住居や教育、医療、事 故などの英語対応の充実が必要である。	9. 高度人材(外国人)に対応したレジデンスの確保 →都心部でのマンション整備等の対応 →風俗表のクリーンなまちづくり 10. インターナショナルスクールの充実 11. 英語対応による生活サポート(医療…等)の充実
プロモーション活動の推進 ネットワークづくりや情報発信等を 強化する必要がある。	12. ネットワーク等を活用した誘致プロモーション活動 →福岡市による国際金融アンバサダーの委嘱 →非化石電源比率が高く環境に優しい都市、安価な生活コストなどのPR →各社・団体の様々な機会を通じたプロモーションの実施



TSMC立地では産学官民が連携して
受入環境の整備に動く。
生活の質は成長の競争力になる。

国際金融機能誘致においても、
高度人材が求める生活環境(教育/医療/住居)
の確保が課題になっている。

ザ・リッツ・カールトン福岡が入居する福
岡大名ガーデンシティ・パーク(広場)で
の校区夏祭り。多様な人々が共存する福岡
の将来が垣間見える。

<プロジェクトを通じて頂いたご意見(抜粋)>

- ・ イノベティブな人材を惹きつける都市アメニティ
- ・ 国際化のために国際人材・高度人材が求める生活環境の提供
- ・ 人口減少局面を想定すると、海外企業の誘致と外国人居住の促進は必須であり、ハード・ソフト両面で再編が必要
- ・ これまでの10年で天神ビッグバン等によりハード整備は一定で
きた。今後は、ハードを活用して競争力のあるソフト戦略をど
つつくっていくか、という次のステージにきている。

2. これからの10年の福岡

◆ 視点2) 持続可能性を確保しなければならない

- ✓ シアトルをはじめ、世界の成長著しい都市では、ジェントリフィケーション※などによる新たな都市課題が生じている。福岡では海外と比べ相対的に大きな課題状況にはなっていないが、今後成長を進展させていく上で生じうる課題である。
- ✓ グローバルでも解決されていない課題に、福岡はいち早く取り組み先手を打つ。包括的で公平なサービスを見据えながら、企業誘致や生活の質の高度化を図っていく必要がある。
- ✓ また今後、少子高齢化により九州の人口減少が加速する中で、相対的に福岡の影響力が高まっていく。暮らし・経済をどう維持するか。九州広域の持続可能性とセットで考えなければならない。

Amazon等の進出により追い出される昔ながらのシアトルの店舗とそれを記録する活動 (Vanishing Seattle)



出典： Leanna Garfield, 「アマゾン本社ができて、地元の店が消えたシアトル」
<https://www.businessinsider.jp/post-162508>

リチャード・フロリダ「Economic Development 3.0」

Economic Development 3.0	包括的で公平で誰もが生活やサービスを楽しめるコミュニティを手頃な価格で構築すること
Economic Development 2.0	人材を惹きつけるための都市の生活の質の高度化
Economic Development 1.0	企業の誘致やクラスター形成

出典： https://torontosun.com/life/homes/a-case-for-flattening-our-cities?fbclid=IwAR3cmj3gl2yhWk8QIDjukF_IveYISbbrXc7bZJqJvMBCX7Y1weLaQINn6d8

<プロジェクトを通じて頂いたご意見 (抜粋) >

- 天神ビッグバンによる経済構造の高度化を期待する一方、不安定な産業構造にならぬよう、高付加価値企業を支える産業の支援・育成が望まれる
- 今後生まれる天神ビッグバンの公開空地は、できる限り訪れる人の声を反映した多様な使い方を受け止める場所となることを期待
- 天神・博多ばかりクローズアップされがちだが、市内には経済格差を感じるエリアもある。
- 流動性を踏まえ、福岡市以外のことも考える必要がある。
- 持続的に成長する九州の中核都市であることを期待。
- 自治体間の広域連携の重要性がますます高まっている。

2. これからの10年の福岡

◆ 視点3) 国際競争力をもつため、グローバルな価値観の変化に対応する必要

- ✓ 都市の評価指標は、経済や人口など規模の大きさを測る指標から、環境・社会などの社会指標により重きを置くようになり、指標自体の多様化も進んできた*。
- ✓ コロナ禍も経て、ダイバーシティ、インクルーシブ、レジリエント、カーボンニュートラル、ウェルビーイングなど、世界は都市として備えるべき価値観を大きく変化させており、福岡はグローバルスタンダードに機敏に対応していく。

国連ハビタットは都市化する世界の3つのパラダイムシフトへのコミットを求める



Sustainable urban development for social inclusion and ending poverty;

Sustainable and inclusive urban prosperity and opportunities for all

Environmentally sustainable and resilient urban development

出典：国連ハビタット「New Urban Agenda」(2016)

ドーナツ経済を中核に置く
アムステルダム市のサーキュラーエコノミー戦略



出典：Amsterdam Circular 2020-2025 Strategy

都市のレジリエンスとして求められることは幅広い

- ✓ 自然災害等に対する脆弱性の低減
- ✓ インフラサービスの継続性確保
- ✓ 持続可能な経済
- ✓ 多様な暮らし方と雇用
- ✓ 健康とウェルビーイングなど

出典：City Resilience Index, Rockefeller & Arup, Feb. 2017

<プロジェクトを通じて頂いたご意見(抜粋)>

- ・ 誰ひとり取り残さないインクルーシブな公民館の普及を
- ・ 健康と環境を結びつけたプラネタリーヘルスの観点で気候危機への取り組みを行う

- ・ 企業経営ではダイバーシティ&インクルージョンに、最近ではエクイティ(公平・公正)も重要視されているが、企業単独では難しいため、産学官民で取り組めると良い
- ・ 福岡証券取引所を、今世界的に潮流が来ている「インパクト投資」市場にし、国際金融都市構想の中核として世界からインパクトIPOを目指して企業が集まる仕組み

(参考) 海外都市のマスタープラン事例

◆トレンドや課題に対応した戦略が策定されており、福岡市の参考になる

- ✓ NYC：多様性の受け入れや気候変動経済の創出などを目標とイニシアチブに設定
- ✓ ロンドン：急激な成長がもたらしたジェントリフィケーション等の課題を踏まえ、単なる成長ではなく、“すべての人にとって持続可能な成長 = 「Good Growth」 ”を目標に全体設計

One NYC (ニューヨーク)

- 2019年策定の2050年を目標にした総合戦略

The London Plan (ロンドン)

- 2021年に策定された20-25年先を見据えた総合戦略

2050年のNYCの目標	イニシアチブ (政策)
1. 活気に満ちた民主主義 全ての市民が市民的・民主的な生活を送ることができること	市民参画の推進、新規流入市民の支援、正義・平等の促進、民主主義の促進
2. 包括的な経済 経済成長がすべての市民に機会を創出しアメリカンドリームを守ること	高賃金雇用創出、公正な賃金と福利厚生、労働者の権利向上、都市の財政力向上
3. 繁栄するコミュニティ 全ての地域が安全で、手頃な住宅があり公園や文化が充実していること	安心・安全な住宅、公共空間と文化、地域の安全の確保、コミュニティの強化
4. 健康的な生活 健康格差がなく、全ての住民が平等に健康的な生活を送れること	安価で質の高い医療、公平な保健環境、健康的な生活、Well-beingな環境構築
5. 教育の公平性と卓越性 あらゆる背景の子どもたちに多様で質の高い教育を公平に提供すること	先端的な幼児教育、幼稚園から高校までの機会公平性確保、学校の多様/公平性
6. 住みやすい気候 気候変動の影響に備え、化石燃料に頼らないこと	カーボンニュートラル達成、レジリエンス向上、気候変動経済創出、気候への責任
7. 効率的なモビリティ 自動車が必要のない、信頼性が高く、安全で、持続可能な交通があること	マストラ近代化、道路の安全確保、渋滞と排出削減、地域・世界との路線強化
8. 近代的インフラ 都市の繁栄を支える、信頼できる物理・デジタルのインフラ	災害軽減のインフラ投資、デジタルインフラの改善、資産整備管理の高度化

Good Growth 「よい成長」の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 強力で包括的な地域社会の構築 2. 土地の有効活用 3. 健康的な都市の創造 4. ロンドン市民に必要な住宅の提供 5. 良好な経済の成長 6. 効率性とレジリエンスの向上
	「5.良好な経済の成長」の内容 (抜粋) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 広い都市圏の強みと可能性を促進する。 ✓ ロンドン経済が多様化し、経済的成功の恩恵がロンドン全体でより公平に共有されるようにする。 ✓ ロンドンの成長を支えるために、十分な質の高い住宅や手頃な価格の住宅、物理的・社会的インフラが提供されるようにする。 ✓ ロンドンが技術革新、研究、政策、アイデアの分野でリーダーシップを発揮し続け、国際的なインキュベーター、学習の中心地としての役割を支援する。 ✓ ロンドンの豊かな遺産や文化資産、24時間都市としての役割を促進・支援する。

提言 「都市経営の基本戦略」のアップデート

◆ 以上を踏まえ、次期マスタープランにおける「都市経営の基本戦略」のアップデートを提言する

「都市経営の基本戦略」のアップデート

I

「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創り出す

あらゆる「生活の質の向上」と「都市の成長」を統合的に考え、持続可能にする

- ✓ 都市の成長と生活の質を統合的に考える（別々に考えない）
- ✓ 都市の成長を支える国際・高度人材が求める高質な生活環境の確保が必要
- ✓ 天神BBで働く場の選択肢が増えることもウェルビーイングに寄与
- ✓ 従来の暮らしやすさも担保しながら、高い生活の質と成長を実現する

II

福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

福岡都市圏・九州広域の中核都市として、相互裨益する成長を生み出す

- ✓ 周辺自治体との連携による福岡都市圏全体での一体的な発展
- ✓ 九州の地域資源を活かした産業成長
- ✓ 福岡の成長を原資に人口減少する九州を支える
- ✓ 東アジアのビジネスハブとして発信力を高める

提言 都市経営の基本戦略/目指す姿/施策の方向性 のイメージ

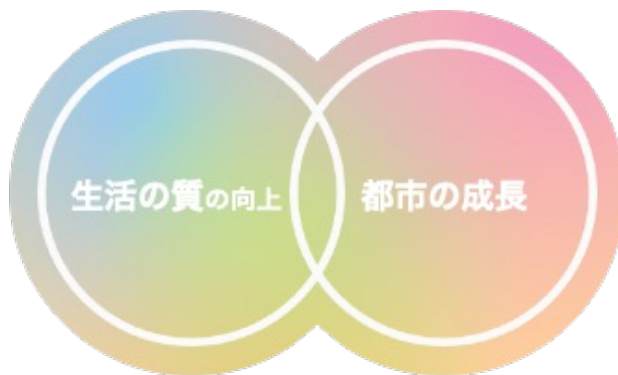
生活の質の向上と都市の成長の好循環は、新たなフェーズへ。

あらゆる「生活の質の向上」と「都市の成長」を統合的に考え、持続可能にする

Fukuoka New Standard 01

イノベーションが
継続的に生まれるまちへ

施策例) ・グローバル人材・高度人材の育成
・スタートアップの成長支援



Fukuoka New Standard 03

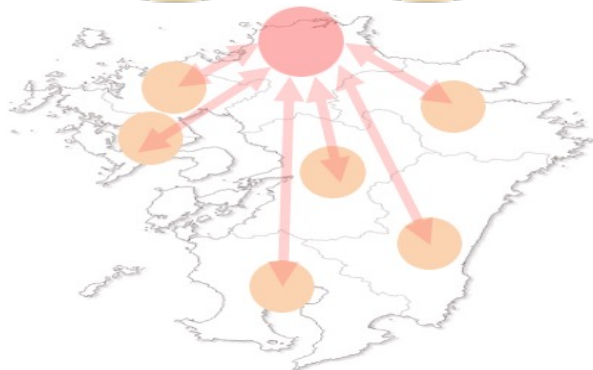
最先端の技術で
日本一安心なまちへ

施策例) ・データ連携基盤の官民活用
・グリーンビジネス創出推進

Fukuoka New Standard 02

多様な人が共生するまちへ

施策例) ・高度人材（外国人）の快適な
生活環境の提供：教育・住居・医療



Fukuoka New Standard 04

九州の玄関口として
ともに活力を生むまちへ

施策例) ・観光MICE都市としての強化
・世界への発信（シティプロモーション）

福岡都市圏・九州広域の中核都市として、相互裨益する成長を生み出す

提言 目指す姿と施策の方向性

◆ 新たな「都市経営の基本戦略」のもと、取り組むべき施策の方向性を提言する

目指す姿 Fukuoka New Standard	施策の方向性
<p>1 イノベーションが継続的に生まれるまちへ 多様な人材が集積し、多様なビジネス展開に適した魅力的なまちが作られ、グローバル経済の拠点となって、イノベーションが継続的に生み出されている。</p>	<p>1-1. 人材育成 1-2. まちづくり 1-3. スタートアップ・企業誘致 1-4. 中小企業等の付加価値向上</p>
<p>2 多様な人が共生するまちへ 変化する多様なニーズに寄り添い、誰もが健康で文化的な生活を営める、公平で寛容で自由な社会が形成されている。</p>	<p>2-1. 多様性 2-2. インクルーシブ</p>
<p>3 最先端の技術で 日本一安心なまちへ 最先端の物理的インフラとデジタルインフラが整備され、安心・安全で持続可能な生活環境が確保できている。</p>	<p>3-1. デジタル 3-2. レジリエント 3-3. 環境</p>
<p>4 九州の玄関口として ともに活力を生むまちへ くらし・産業のイノベーションと都市圏・九州との相互連携により、持続的に成長するアジアのリーダー都市になっている。</p>	<p>4-1. 新たな産業づくり/既存産業の高度化 4-2. 広域連携・役割分担</p>

提言 施策の方向性

◆ 目指す姿1. 多様な人材が集積し、多様なビジネス展開に適した魅力的なまちが作られ、グローバル経済の拠点となって、イノベーションが継続的に生み出されている。

[施策の方向性]

◆ 1-1. 人材育成

- ・ アジアのリーダー都市・福岡を支えるグローバル人材・高度人材の育成
- ・ 産学官連携による高度人材の誘致・定着の推進
- ・ リスキリングの推進

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- ・ 理工系人材をはじめとする優秀な人材の首都圏等の流出は課題であり、いかに人材を地域に留め、選んでもらうかが重要。
- ・ 中学校・高校での留学生受入によるグローバルシティズンづくり

- ・ 次代を担う多様な人材育成のための教育機関や教育プログラムの充実
- ・ 理系人材・クリエイティブ人材のための学びの場の提供
- ・ 学生や外国人を対象としたイノベーション教育の充実

◆ 1-2. まちづくり

- ・ 都心（天神、博多、ウオーカブル、リバーフロント等）・中間・郊外広域の特性を生かした競争力のあるイノベーション都市の形成
- ・ 都心をはじめとするウォーカブルなまちづくりの推進
- ・ 新たなモビリティの活用も見据えた都市交通の実現
- ・ 持続可能な公共交通ネットワークへの再編
- ・ 広域交流を支える交通ネットワークの強化
- ・ 福岡・博多の歴史・文化を活かしたまちづくり

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- ・ 多様な選択肢や挑戦できる環境の整備で福岡の魅力を向上させる
- ・ 福岡には魅力ある歴史・文化資源があるが、その強みを活かしてきれていない。市民がもっと興味をもち郷土愛を醸成できるまちづくりが必要。

- ・ 大学のアセットを生かした学研都市としてのまちづくり
- ・ 九州MaaSをリードする公共交通のリ・デザイン
- ・ ウォーカブルなまちづくり：道路空間の再編、適度な自動車流入の抑制、グランドレベルの賑わい形成、地下ネットワークの充実、空地・広場の柔軟な活用促進

提言 施策の方向性

◆ 目指す姿1. 多様な人材が集積し、多様なビジネス展開に適した魅力的なまちが作られ、グローバル経済の拠点となって、イノベーションが継続的に生み出されている。

[施策の方向性]

◆ 1-3. スタートアップ・企業誘致

- スタートアップのさらなるスケールアップ支援、産学官の連携
- グローバル企業、本社機能、バックオフィスの誘致促進、都心へ誘致すべき企業の具体化
- スタートアップや誘致企業の活動を支える機能の強化や企業団体の支援・誘致

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 再開発による大規模オフィスプレートの整備が住んでおり、今後は国内外企業から選ばれる、持続的なビジネス需要の創出が重要。

- 低廉なエリアへのスタートアップ企業の誘致
- 民間企業のイノベーションへの投資を後押しするインセンティブや規制緩和
- 外資系企業誘致のための税制優遇措置の検討

◆ 1-4. 中小企業等の付加価値向上

- 事業再構築や新たなビジネスモデル創出など自己変革に挑む事業者の後押し
- 地域商業・商店街の機能強化
- 地域活力を支える事業の承継支援

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 人手不足や生産性向上のために大企業のみならず中小企業のデジタル化も重要。
- デジタルを活用した新たなビジネスやサービスの創出にも力を入れていくべき。

- スモールビジネスに挑戦できる環境整備
- 中小企業のデジタル化

提言 施策の方向性

◆ 目指す姿2. 変化する多様なニーズに寄り添い、誰もが健康で文化的な生活を営める、公平で寛容で自由な社会が形成されている。

[施策の方向性]

◆ 2-1. 多様性

- 障がいや性別、年齢、国籍などに関わらず多様な人材が活躍しやすい環境づくり
- 高度人材（外国人）の快適な生活環境の提供：レジデンス・医療機関・インターナショナルスクールの積極的な整備や誘致、生活サービスの多言語化

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 市の競争戦略として多様性と包摂性を重視した産業政策を進める
- あらゆる人に選択肢（可能性）が開かれるまち
- 海外人材が安心して働ける、データを活用した会話支援の仕組み
- 幼稚園、保育園の充実（待機児童ゼロシティ）

◆ 2-2. インクルーシブ

- ユニバーサルデザインの推進：多様な人に配慮した施設や設備、サービス等の導入
- エッセンシャルワーカーが希望をもって働ける環境づくり

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 市の競争戦略として多様性と包摂性を重視した産業政策を進める
- 性別・世代・国籍を問わず団らんしているまち
- アジアのリーダー都市として、アジアの人と交わる場が必要
- 都心のユニバーサルデザイン化の推進
- 天神ビッグバン等を支えるエッセンシャルワーカー・ブルーワーカーへの支援

提言 施策の方向性

◆ 目指す姿3. 最先端の物理的インフラとデジタルインフラが整備され、安心・安全で持続可能な生活環境が確保できている。

[施策の方向性]

◆ 3-1. デジタル

- データ連携基盤の整備と官民での活用
- DXを支える高次情報インフラの整備とモデルエリアにおける社会実装

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 行政保有データへのアクセス改善
- 行政手続き・サービスのデジタル化
- データ連携基盤の運用母体、ルール・手順などの環境整備
- 都市DXの推進
- 高速Wi-Fiなどインターネット網の整備
- 交通・人流・購買データの観光やまちづくりへの応用
- 健康・医療・介護データの取得・共有による健康寿命延伸

◆ 3-2. レジリエント

- デジタル技術を活用した防災対策の高度化、BCP対応の推進
- 官民連携による防災体制の強化、レジリエントな都市としての情報発信

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 国内外企業から選ばれるまちづくりを目指す上で、BCP向上策の検討・実施への連携を
- デジタル技術の活用で高度化された防災システム
- 近隣自治体と連携した防災対策
- 災害に強靱な都心の形成

◆ 3-3. 環境

- カーボンニュートラル実現に向けた先進的な取り組みへの支援、規制緩和
- グリーンビジネスの創出の推進

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 2040年カーボンニュートラル達成には個々の民間事業者の取り組みだけでは限界がある。先進的な取り組みの検討・実施への連携を
- グリーン、エネルギー産業でのイノベーション推進

提言 施策の方向性

◆ 目指す姿4. 暮らし・産業のイノベーションと都市圏・九州との相互連携により、持続的に成長するアジアのリーダー都市になっている。

[施策の方向性]

◆ 4-1. 新たな産業づくり／既存産業の高度化

- 新たな核となる産業の確立（半導体、グリーン等）
- 基幹産業のDXやオープンイノベーションの推進
- 福岡の強みである食、クリエイティブ、観光・MICE関連産業の振興
- 農林水産業の高度化支援

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 社会課題解決に向けたイノベーションを促進し、新たな成長エンジンとして活用する。

- 産学官および他県と連携した半導体関連産業集積支援
- 国際MICEの誘致
- インバウンド&アウトバウンドの拡大支援

◆ 4-2. 広域連携・役割分担

- 広域でのデータ連携基盤の整備
- デジタル技術を活用した交通・防災の広域連携
- 福岡都市圏や九州の地域資源を生かした広域観光のハブ機能強化
- 人口減少局面を見据えた福岡都市圏・九州一体での都市機能の適正化
- 世界・アジアへの情報発信、都市ブランディング

<プロジェクトを通じて頂いたご意見（抜粋）>

- 福岡市だけでなく、福岡県で誰もが住みやすいまちづくりを。
- MICE/観光、食関連、エネルギーなどの領域で、広域連携のもとで成長事業を構想し、その中核として福岡市の産業政策を計画する

- 九州MaaSを活用した九州広域観光圏やアジア広域観光圏の形成
- 福岡都市圏にとどまらない都市/生活機能の分担・連携（教育等）
- 福岡市・北九州市の情報連携の強化

Appendix. 提言経緯

- ◆ 本提言は、「福岡市次期基本計画(マスタープラン)策定に向けた民間意見の取りまとめプロジェクト」で頂いたご意見を踏まえて作成しました。

【福岡市次期基本計画(マスタープラン)策定に向けた民間意見の取りまとめプロジェクト】

2024年度の福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に当たり、FDCが主体となって、市内の様々な主体に働きかけを行い、FDC会員の意見はもとより、市内団体等の意見を取りまとめるなど、民間主導で福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に意見出しを行う

- 目 的** 市内の多様な主体の意見を取りまとめ、民間主導で福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に意見出しを行うため
- 取組期間** 2023年4月～9月末
- 取組内容**
- (1) 専用ホームページの開設（意見聴取のための受付フォーム設置）
 - 個人95件／団体22件（延べ117件）
 - (2) 経済団体等へのヒアリング
 - 福岡商工会議所、九州経済連合会、九州大学（3団体）
 - (3) 意見聴取に資するイベントの開催（延べ176名）
 - キックオフイベント「10年後の福岡を語る」
 - 福岡テンジン大学・福岡未来創造プラットフォーム 共催イベント「ふくおか未来会議」
 - UR都市機構 共催イベント「Table Session Tenjin『10年後も働きたいまち』」
 - 福岡音楽都市協議会 共催イベント「音楽都市 福岡の未来」
 - (4) 市内各団体へのヒアリング
 - We Love 天神協議会、天神明治通り街づくり協議会、博多まちづくり推進協議会（3団体）
 - (5) FDC会員への意見聴取
 - FDC会員ワークショップ、部会での討議/意見聴取（延べ240名）